

健康寿命延伸に向けた家庭血圧測定の地域介入および地域コホートの立ち上げ—能勢健康長寿研究（のせけん）

Community intervention of home blood pressure monitoring for healthy longevity

樺山 舞

大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻

【目的】 本研究は、主に家庭での自己血圧測定が、疾病ならびに老年症候群をいかに減少させるかを検証することを目的としたものであり、今回、コホート立ち上げの実際およびHBP測定の現状を報告する。

【方法】 本研究は能勢町の「高齢者における保健事業と介護予防の一体的実施」事業の一環として大阪府豊能郡能勢町（総人口9758人）の40歳以上住民を対象に行った。大学が研究を通して町事業を共同実施することで、町事業の効果的な推進と町民への直接的、間接的な疾病予防や健康増進へ寄与するというメリットが最大限発揮できるような仕組みづくりに努めた。地域コホートはオムロンヘルスケアTOP-Zプロジェクトとして「HBP測定先行開始地域」と「対照地域」に2群化し、認知機能と老年症候群を主要指標とした測定を実施した。

【結果】 登録者は合計1138名（40歳以上町民の15.6%、介入群664名）であった。R2年8月～R3年8月、研究の周知とリクルート、各種測定、介入群への家庭血圧配布を実施した。毎月の広報掲載に加え、地元の集会所やコロナワクチン接種会場等約50か所へ出向いて行った。介入群の約半年後調査では毎朝晩HBP測定・記録していたのは91.2%であった。

【結論】 町と共同で実施したこと、また地元の集会場等へアウトリーチしたことにより、通常の会場参加型では得られない多様な対象者が研究登録し、家庭血圧測定に取り組んでいる。本共同研究は住民の疾病予防と健康増進に寄与していると考えられる。住民の健康意識向上に寄与したと考える。